

## マタイの福音書 5章 1-12 節

## 八の至福—約束されている祝福 (8)

## 迫害される人の祝福

- 5:1 この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみもとにきた。  
5:2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。  
5:3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。  
5:4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。  
5:5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。  
5:6 義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるから。  
5:7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるから。  
5:8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るから。  
5:9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるから。  
5:10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。  
5:11 わたしのために人々があなたがたをののしり、迫害し、ありもしないことで悪口を浴びせるとき、あなたがたは幸いです。  
5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天ではあなたがたの報いは大きいから。あなたがたより前にいた預言者たちを、人々はそのように迫害したのです。

## はじめに

八の至福はイエス様が信者に約束されている祝福です。先週にも言いましたが、神様に従ってその御心を実行するクリスチャンは必ずこれらの祝福を全部経験します。誤解しないで頂きたいですが、全ての信者が必ず全部経験するとは言っていません。どこまで信者として神様の御心に従うかによってどこまで祝福されるかが決まります。今日の8番目の至福は最後なのでこの地上で体験出来る最高の祝福です。

第二テモテ 3:12. 「確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます」。キリスト・イエスにある人はみな、とは書いていなくて、キリスト・イエスにあって敬虔にいきようと願う人、と限られています。

## 1. 誰がイエス様の為に迫害されるのでしょうか？

マタイ 5 : 10-12 「義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。

5:11 わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。

5:12 喜びなさい。喜びおどきなさい。天においてあなたがたの報いは大きいものだから。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。」

誰についてこの事を言われているのかを考えさせられます。10節は、世の中で誰でも、正しい事をする為に迫害されたら神様に祝福される、と解釈したら、間違った解釈になります。イエス様は間違った解釈をしないように更に付け加えて明白に「私の為に」迫害されている人について教えている、と強調しています。この教えはすべてイエス様の信者の為に書いてあります。

先ほど引用した第二テモテの御言葉に書いてありますように、キリスト・イエスにあって敬虔に生きる人は確かに迫害されるとありますが、キリストにあって敬虔に生きるとは、キリストの証人（あかしびと）として生きることです。キリストの御国の為に生きようと願っている人です。具体的に言えば、他の人もイエス様を信じるように祈って、人の救いに貢献したい人です。神の国の前進は何の抵抗もなく前進することはないので、参加している人は必ず例外なく何らかの形で目に見えない悪の力の抵抗を経験します。

最後の三つの至福は神様の御国の働きの為に用いられる信者について書いてあります。心の清い人は全てを神様に委ねて聖別されて聖霊と神の愛で満たされ、それから、先週に見たように必ず平和を作る人として用いられます。つまり他の人にも神様の赦しと和解が実現するように用いられて、イエス様と同じように本当の平和を作る人になります。これは何とも言えない祝福と特権ですが、その人は絶対に何らかの形で迫害を経験します。ですから、イエス様はここで、「喜びなさい」だけではなく、「踊り喜びなさい」と強く強調しています。迫害は自分が神様の御国の前進に貢献している証拠の一つです。それでイエス様は付け加えて天の御国であなたがたの報いが大きい、と言っています。迫害を自分で選ぶ人はいませんが、起こる時に最高の喜びとして受け止めなさいとイエス様は言っています。それと関連してイエス様は次の事を言いました。

ヨハネ16：33「わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためです。あなたがたは、世にあっては患難があります。しかし、勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです。」

迫害とは書いてありませんが、艱難は幅広い意味で迫害も含めています。だから、絶対に迫害やそれ以外の艱難を恐れてはいけません。どんな時でも平安のうちに過せるようにイエス様はこう言って下さっているのです。しかも、これは神様の命令です。恐れてはならない、心配してはならない、心を騒がせてならない、キリストの平安があなたがたの心を支配するようにしなさい、というは全部命令として書いてあります。その為にこそあなた方は召されていると書いてあります。私はこれを強調し過ぎていると思われてしまうかも知れませんが、この時代において心が完全に恐れで支配されている人を沢山見てきました。残念ながら、クリスチャンも少なくありません。未信者なら、神様を知らないから仕方がないかも知れませんが、イエス様の信者は恐れに支配されてはいけないし、その必要は全くありません。神様はこんなに繰り返して平安の内に生きなさいと言って下さっています。イエス様とその御国の為に生きるのを怖れるのではなくて、平安と喜びで満たされる生き方です。

## 2. イエス様の為の迫害とは何でしょう？

マタイ5:11「わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないことで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。」

私達は迫害と言う言葉を聞く時、暴力や、極端な場合は殉教者になる信者の事を考えてしまいますが、イエス様はここで、それだけではないと教えて下さっています。「ありもしない事で悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです」と言っています。だから、目の前で言われていない悪口や、無視されたり、除け者にされたりすること、そしてクリスチャンとして経験する不当な扱いや不公平な扱いもすべて含まれています。

第一ペテロ1:20-21。「罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐え忍んだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行なっていて苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。

2:21 あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されました。」

先週もこの箇所を一緒に見ましたが、その時には20節を見なかったもので、もう一度見ています。不当な扱いと不公平な扱いで苦しむ事を耐え忍ぶようにクリスチャンとして召されています。イエス様は、今日の至福によって耐え忍ぶだけではなく、その時に喜び踊りなさいと言っています。そんな状況で喜ぶ事が出来るようになるには何が必要でしょうか？正しく理解する必要があります。

「こんな嫌な事が起きているのは偶然ではない。自分の祈りや証でイエス様の御国の働きに貢献していて、その証拠に目に見えない悪の力の反発を起こしている。」そのように理解したら、嫌と思わず喜ぶ事が出来ます。そして、目に見える人に対して腹を立てなくて済みます。イエス様は自分を裏切ったイスカリオテのユダでさえも、ゲッセマネの庭で逮捕される時でも、友と呼んでいました。

マタイ26:50 イエスは彼に、「友よ。何のために来たのですか。」と言われた。そのとき、群衆が来て、イエスに手をかけて捕えた。

イエス様の十字架上での赦す祈りもそれを裏付けています。「父よ彼らをお許し下さい。彼らは、何をしているのか自分で分からないのです。」イエス様は人を敵として見ていません。逆の実例もあります。

マタイ16:22-23.「するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」

16:23 しかし、イエスは振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」

ペテロがイエス様をかわいそうに思ってイエス様に苦しみを避けるように話した時に、イエス様はペテロではなくてペテロを利用している悪魔に対して言いました。

この箇所で大切な事を学ぶことができます。自己憐憫は悪魔から来ていると言う事です。自己憐憫は神様の御心に従う際の邪魔ものです。

エペソ6：12「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」全部だと長いので、18-19節に飛びます。

エペソ6:18-19「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。6:19 また、私が口を開くとき、語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるようにも祈ってください。」

イエス様の働きに参加すれば霊的な戦いに関わる事になります。

はっきり言いますが、日本という国でイエス様の御国の働きに参加すれば、戦いの最前線に関わる事になります。使徒パウロは歴史で最強の宣教師ですが、彼でも、この箇所で教会にお願いしています。「私の為にも祈って下さい。」最強の宣教師が教会の祈りを必要としていたのなら、私達は尚更です。

### 3. イエス様のために迫害される人の祝福。

この最後の至福だけで、イエス様は祝福の上にさらに祝福について話しています。

10節「天の御国はその人のものだからです。」と言って、一番最初の至福の「心の貧しい人」と同じ祝福を繰り返しています。つまり、天国に所属する祝福については最初と最後にあるので、その間の祝福も全部イエス様の信者の為にあります。これらの教えを未信者や一般世間に適用するには無理があります。これらはイエス様の弟子の生き方を教える為に与えられている教えです。天国に所属するという事は、神様の全ての祝福の中の最も基本的な祝福です。イエス様の信者は全ての

罪を赦されてイエス様の命の書に名前が書かれ、天国に所属している祝福を与えられています。この地上の国籍より、もっと大切な国籍があります。

ピリピ3:20 「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」

その上に続きとしてイエス様はこう言いました。

マタイ5:12 「喜びなさい。喜びおどきなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのです。あなたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。」

迫害を受けている信者は神様の御国の働きに貢献した預言者達と同じ経験をしているから、大いに喜びなさいと言う意味です。

天国に入るだけではなくて天においてあなたがたの報いは大きいのです、と付け加えています。つまり、神様の御国に貢献している事によって天に宝を貯えているという意味です。迫害を受けているのはイエス様の証人として生きて神の御国の働きに貢献している証拠の一つです。これを理解したら、嫌がらせ、悪口、迫害を喜んで受け入れることが出来ます。

使徒5:40 「使徒たちを呼んで、彼らをむちで打ち、イエスの名によって語ってはならないと言いつつ、彼らを釈放した。」

5:41 そこで、使徒たちは、御名のためにはずかしめられるに値する者とされたことを喜びながら、議会から出て行った。」

初代の教会の使徒達と信者達はこれを最高の祝福として受け止めて大いに喜んでいました。

マタイ6:20 「自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。6:21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。」

イエス様の信者は皆、天国に入れますが、その中で報いは皆同じではありません。それぞれの報いが違います。

第一コリント3:13-15. 「各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現われ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。」

3:14 もしだれかの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。

3:15 もしだれかの建てた建物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるようにして助かります。」

最後の言葉を読んでクリスチャンは誰でも安心すると思います。クリスチャンとして失敗しても、すべてのこの地上で建てたものを損なっても天国に入れます。もちろん、天国は何も悲しみのなく、完全な喜びで満たされる場所ですから、そこで後悔するようなことや、悔しいような事はありません。

まとめ。

「私はひどい迫害を受けたら、耐えられるかな？」イエス様の信者として誰でも考える事があると思いますが、その時になったら、聖霊はそれに合わせて特別な働きをして下さいます。イエス様のようにその苦しみを受け止めるなら、その時に一番、聖霊が自分を通してイエス様の栄光とイエス様の美しさを表して下さいます。その意味も含めて最後の至福は最高の祝福と言えます。

八の至福のすべての祝福は天国で与えられるだけではありません。今この地上でも与えられています。

第一ペテロ 4:14 「もしキリストの名のために非難を受けるなら、あなたがたは幸いです。なぜなら、栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくださるからです。」

このみ言葉は珍しい表現を使っています。聖霊の呼び方として栄光の御霊はここだけです。栄光の御霊があなたがたの上にとどまっています。

実例をみましょう。

使徒の働き 6:13-15

「そして、偽りの証人たちを立てて、こう言わせた。「この人は、この聖なる所と律法とに逆らうことばを語るのをやめません。

『あのナザレ人イエスはこの聖なる所をこわし、モーセが私たちに伝えた慣例を変えてしまう。』と彼が言うのを、私たちは聞きました。」

議会で席に着いていた人々はみな、ステパノに目を注いだ。すると彼の顔は御使いの顔のように見えた。」

ステパノの顔が御使いのように見えたときは、一番イエス様の美しさを表していた時です。それは不当な扱いを受けて事実と違う事で訴えられて悪く言われている時でした。この出来事の最後の結末を見ましょう。

使徒の働き7:55-56. 「しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て、

7:56 こう言った。「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます。」

聖書にはいつもイエス様は神の右に座っておられると書いてあるのに、ここだけイエス様は神の右に立っておられると書いてあります。ステパノを天に迎える為に立っておられたのです。

最後に最高の祝福をステパノに与えられました。

最初から言って来ましたが、イエス様は八の至福を完全に実現した唯一の救い主として、私達信者の一人一人の中でこれが実現され、私達を通してその美しさが表されるよう、この教えを与えて下さいました。イエス様の為に迫害を受けるのを恐れる必要はありません。それを最高の祝福として受け止めて下さい。